

男性・女性の更年期障害

近年メディアでも取り上げられているように、更年期障害は女性だけでなく男性にも起きるものです。ここでは、男女に現れる症状の違いをご紹介します。

更年期障害の起きる原因が“ホルモン分泌の低下”だということは、ご存知の方も多いと思います。ただ、その進行具合は違い、男性はホルモンの低下が緩やかだからだが順応しやすいため、更年期障害が出にくいといえます。女性の場合はホルモンの変動が激しいので影響を受けやすく、男性よりも心身にトラブルが起きやすいです。発症も男性に比べ早い傾向があります。

症状としては、男女ともに自律神経失調を基盤とした不定愁訴が主で、内容的には同じです。しかし、症状の出現頻度が男女では異なり、男性が疲労・不眠、女性がのぼせ・イライラが多く見られます。また、更年期障害における男性の性機能障害と、女性の月経異常・無月経が対応しているといえます。

■更年期障害の男女差

	男性	女性
発症年齢	40～60歳(平均53歳頃)	45～55歳(平均50歳頃)
発症の仕方	ゆるやか	急激
症状	不定愁訴(精神症状+身体症状)	
治療	環境調整、精神療法、家族療法、ホルモン補充療法 向精神薬(抗うつ剤、抗不安剤、睡眠剤) 漢方薬、自律神経調整剤、末梢循環改善薬	

■症状の頻度順比較

男性

- 1 神経質(主観的)
- 2 疲労
- 3 不眠
- 4 興奮状態
- 5 抑うつ状態
- 6 背頸部痛
- 7 頭痛
- 8 のぼせ
- 9 頻脈、心悸亢進
- 10 記憶力・集中力減退
- 11 めまい
- 12 便秘
- 13 漠然痛
- 14 神経症
- 15 視野暗転
- 16 知覚異常
- 17 寒け

* 性欲減退、インポテンツ

女性

- 1 神経質(主観的)
- 2 のぼせ
- 3 興奮状態
- 4 疲労
- 5 抑うつ状態
- 6 便秘
- 7 漠然痛
- 8 頻脈、心悸亢進
- 9 めまい
- 10 記憶力・集中力減退
- 11 不眠
- 12 頭痛
- 13 神経症
- 14 背頸部痛
- 15 視野暗転
- 16 知覚異常
- 17 寒け

* 月経異常、無月経

